

さらに、海岸を少し北側に歩きながら観察していくと、黒色千枚岩に張り付くようになっている角閃石安山岩が見えてきます。児童の皆さんには岩石の違いを見たり、触ったり、写真を撮ったりしながら、観察してもらいましたが、職員からのクイズにも積極的に答えてくれたり、熱心に質問をしてくれたり興味津々な様子でした。地質の学習は文字や写真のみだと実物を知ることは難しい面もありますが、自分たちが住んでいる身近な地域には、どのような地層があり、それがどのように形成されたのかを現地で見て、触れることで、その特徴を知ってもらえる機会になったのではないかと思います。

恩納村は他にも巨大サンゴの化石が入っている場所や、海岸のビーチロックといわれる岩石、津波石や海食洞といった様々な地層や地形などを見ることができる地域です。普段何気なく見ている景色も少し近寄って観察してみるといつもとは違う発見があるかもしれません。たまには野外観察に出かけてみるのもいかがでしょうか。(後藤・吉田)

恩納村の文化財 71

恩納村の水中文化遺産

～恩納村の海に眠る歴史のカケラ～展 開催中

恩納村の人々は自然豊かな海を昔から利用してきました。生業の一つとしての海との関わり、物流の手段としての航海・人々の移動の手段としても利用されてきました。その海域に沈んだ文化財に今回着目し、展示会を開催しています。平成 27 年度に『水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～ミニ移動展 IN 恩納村博物館』を沖縄県立博物館と連携して開催し、今回の展示会では、水中文化遺産とは？から始まり、平成 27 年度以降に蓄積された調査研究の成果を公開するための展示会となっています。平成 30 年度から3箇年計画で琉球大学と佐賀大学、恩納村博物館の協働調査で得られた調査成果も展示し、谷茶沖では新発見の水中遺跡も確認されています。この機会に是非ご覧ください。(文化係 崎原)

期 間：令和2年11月21日(土)～令和3年2月7日(日)

会 場：恩納村博物館 2階企画展示室及びロビー

開館時間：午前9時～午後5時まで

休 館 日：毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始(12月28日～1月4日)



谷茶の炭焼窯群・住民避難壕群周辺での聞き取り調査

11月26日、谷茶の炭焼窯群・避難壕群周辺で村史編さん係と文化係の合同で、戦時中にこの周辺で過ごしたことがある方の聞き取り調査を現地で行いました。山田久良波から谷茶に避難してきた方の戦時中の体験など、大変貴重な証言をしていただきました。貴重な証言を基に分析と研究を進めています。(文化係 大城)

